

特定非営利活動法人小田原なぎさ会

2021年(令和3年)度事業報告

1. 基本方針と総括(特記事項)

- 小田原地域(小田原市・湯河原町・真鶴町・箱根町 等)で暮らす、精神の障害をはじめとした色々な障害を持つ皆さんが、自立した生活を営み社会復帰と社会参画を促進するための事業を行った。
- 年度基本方針「現在取組み中の活動継続とその内容充実に重点を置く」に沿って各種活動の推進に努めたが、想定以上に長引く新型コロナウイルス感染症(以下、COVID-19と記載)拡大の影響を受け、色々な工夫を盛り込みながら各々の活動を推進した。
- 2019年(令和元年)に策定した中期的な活動指針「広げよう!『活動の輪』」は3年目の折返しの年になった。COVID-19により制約が多い中での活動が続いているが、私達の活動にご理解と共感を持っていただける仲間(法人の会員や協働者など)を継続的に増やすことに注力し、2023年度末に目指す数値目標(正会員数100名以上)の達成に向けて、概ね順調に正会員数を増やすことが出来た。引続きNPO法人の原点である市民活動の拡大を図り、後2年間で上記数値目標の達成を目指す。
- 本年度は、5年前に取得した認定NPO法人の更新の年であり、この対応を着実に進め更新を無事達成した。認定NPO法人のメリットを更に活用することを目指す。
- COVID-19感染拡大が繰り返す中、比較的感染が落ち着いている時期を狙って「小田原なぎさ会創立15周年記念式典」を開催し、盛況に終えることができた。ここまで当法人の活動を拡大展開しながら続けてこられたのは、会員の皆様をはじめとする多くの関係各位のご理解とご協力や参画・協働のおかげであり、深く感謝いたします。
- 小田原なぎさ作業所の運営では、従前同様に「気軽に立ち寄れる居場所作り」と「本人の希望や特性を配慮した相談支援・就労支援」を活動の2本柱として取組んだ。COVID-19感染拡大の中、障害を持つ利用者(以下、メンバーと記載)が集う場所である作業所の開所継続はリスクを伴うものであったが、感染対策を更に強化するなどの努力を粘り強く継続することにより、一人の感染者を発生させることもなく年度計画通りに開所を継続できた。特にメンバーは決めたルールをしっかりと守るなど、常に協力的であったことに感謝している。そして、本年度も4名ものメンバーを就労に向けてステップアップさせることができた。また、新しく2名のメンバーを受入、良い新陳代謝の状態を継続できている。初めての自主製品『エコマグネット』は大口の受注をいただき、作業所での日常的な作業の1つに育ってきており、更に発展させていく。
- 連携事業及び普及啓発事業の一環として、医療・福祉教育機関からの学生実習受入を積極的に推進した。上記同様に、COVID-19の影響で学生実習が難しい状況になった時期もあったが、実習形式(リモート疑似実習等)の工夫などを盛り込み、計画した内容を完遂した。

2. 事業内容

- (1) 精神障害者等の社会復帰を促進する為に必要な施設の設置、運営事業
- (2) 精神障害者等の社会復帰を促進する為の普及、啓発事業
- (3) 関連機関・団体との連携に関する事業

上記、(1)～(3)の事業を推進するため、下記の各活動を行った。

尚、主な活動の実績を添付別紙1「2021年(令和3年)度の主な活動計画と実績」に示す。

* 総会・理事会・月例会議・地域ネットワーク会議等の開催

- ① 認定特定非営利活動法人小田原なぎさ会の通常総会を5月21日に開催し、年度を通した各事業の取組み状況報告及び各議案の審議を行った。
- ② 理事会を開催し、当会の運営及び各事業について、必要な情報共有と協議を行い法人運営と事業推進に努めた。(開催日：4/21、9/8、3/16) 3回
- ③ 月例会議を毎月定例開催し、当法人全般に関わる活動状況と小田原なぎさ作業所における日々の活動状況について、必要な情報共有と協議を行い法人活動及び施設運営事業の充実を図った。
(開催日：原則毎月第1金曜日) 12回
- ④ 地域ネットワーク会議を開催し、地域を巻き込んだ活動展開について協議するなど関係先との連携事業の推進を計画したが、COVID-19 感染拡大状況から3回の会議を中止し、1回のみで開催とした。
 - ・地域ネットワーク会議(広域) 開催1回 開催日：11/17
 - ・地域ネットワーク会議(近隣) 開催2回共に中止 0回

(1) 精神障害者等の社会復帰を促進する為に必要な施設の設置、運営事業 (地域拠点活動 等)

○小田原なぎさ作業所(以下、作業所と記載)の運営

・内容：

- ① 日々の活動であるメンバーの各種生産活動(作業)について、その生産計画策定や作業指導を職員が連携して推進した。また朝夕のミーティングや室内清掃などは、今までに構築してきたシステムを踏襲し極力メンバー主体で自主的に行うように運用している。但し、COVID-19の影響を受けて、日々の作業を以前のように安定して計画・実行することが難しい場面も多々あり、苦労した。その他の週間活動(習字教室・パソコン教室等)や、毎月のお誕生会は去年の経験を活かして、COVID-19 感染対策を強化しながら開催形式を工夫して再開した。社会見学・バス旅行などは感染リスクを配慮し開催を中止した。これらの活動を通して、メンバーが自ら生活のリズムを整えることやソーシャルスキルを向上すること、そして自主性の育成や社会参画の意識を向上することにつながる支援を継続した。

- ②メンバー1人ひとりの障害の程度や希望・特性を配慮しながら自立（自律）促進に取り組んだ。各々のメンバーとの個別面談を大切に、「目標設定⇒振り返り⇒必要な目標修正」のループを廻して面談内容の充実を図り、この情報の職員間での共有にも力を入れている。5～6年前から着手した「希望するメンバーに対する就労に向けた支援」も引き続き強化している。本年度も4名ものメンバーを就労に向けてステップアップさせることができた（P8のグラフ1参照）。また、新しく2名のメンバーを受入、良い新陳代謝の状態を継続できている。一方で、今までは統合失調症のメンバーが大半であったが、近年の特徴として、知的障害や発達障害を持つメンバーが増えてきていることがある。今後もメンバーの多様化が進むと捉え、各々の障害に対して適切な支援ができるように努力を継続している。
- ③上記のメンバーの多様化にも着目して、職員の資質向上に向けた研修を引き続き強化している。本年度も、数年前から開始した内部研修を毎月実施し、指導員としてのスキルアップにつながる取組みを継続して実施した。
- ④「障害に関する映画上映とその後の意見交換会」は、本来メンバー自身が自分を見つめなおす機会を設けることを目的として実施してきたが、昨年度と同様にコロナ禍でのストレス解消に位置づけを変えて、みんなでリラックスして楽しめる映画上映とした。メンバーにとっても良いリフレッシュの場になった。
- ⑤「植付⇒管理⇒収穫⇒収穫祭」の一連活動として定着してきた畑体験は、COVID-19感染対策を強化しながら、「収穫祭」を除いて一連の体験を実施した。コロナ禍の中だからこそ、このように自然の中に身を置くことで、リフレッシュにもつながったと考える。今後も、協力者の応援を得ながらこのような活動を通して、仲間同士の協力や協力者への感謝の姿勢など、人間関係構築に大切な感性を体験的に高めていくことに努めていく。
- ⑥7年目に入った『エコキャップ活動』は、「私たちも誰かを支援できる！」を合言葉にメンバーが主体になって推進する自主活動である。色々な団体・教育機関・地域の皆様などの活動応援をいただきながら、想定を遥かに超える活動に成長しており、活動開始からの収集キャップ総重量が約2400Kg（総数100万個以上）を越えた（P8のグラフ2参照）。この活動が継続して大きく発展してきたからこそ、コロナ禍の中で自主製品『エコマグネット』の創出につなげることができたと考える。また、本活動は比較的人との接触を伴わずに推進できることから、COVID-19の影響をさほど受けずに推進できた。
- このような活動を通して、色々な機関・団体など地域との連携やつながりを強化していくと共に、メンバー自身が自らの存在価値を再認識することや、その達成感ややりがいを感じたりすることで、自主性や社会参画意識の向上につながるように努めた。
- ⑦昨年度の夏にコロナ禍の中で創出した自主製品『エコマグネット』は、当初の普及啓発活動用途から外部の企業や団体及び個人の皆様から制作依頼をいただけるまでに成長してきた。本年度も小田原市社会福祉協議会をはじめ、

多くの企業・機関・個人から大口の受注を受けるなど、発展を続けてきた
(P 8のグラフ3参照)。そして、来年度からは一般市場での販売を目指して、更に魅力ある製品に発展させる具体的な検討・試作を実施した。具体的には、小田原市PRキャラクター「梅丸」や北条五代PRキャラクターの使用許可を観光課からいただき、これらをあしらったエコマグネットの試作販売を開始した。近い将来にはネット販売にも拡大展開を考えている。
エコマグネットはSDGsの実践製品『アップサイクル製品（当初の目的を終えたものを再使用した新たな価値ある製品）』であると共に、これらを製作する作業を生み出すことにより通所メンバーの工賃アップも達成した。

⑧昨年引続き富士見地区防災訓練等は開催中止になったが、作業所独自の避難訓練は、昨年同様にCOVID-19の感染対策をおこないながら収縮梯子を使い実施した。このような活動を継続的に充実化していくことで、職員・メンバーの安全確保に対する感性と行動力が着実に向上している。

⑨ボランティア活動の皆さんの受け入れは、COVID-19の感染対策を徹底した上で活動していただける方の年齢を考慮して、5月から再開した。

⑩悩みや相談ごとのあるメンバーのために、多くの相談の場を設けた。 等

- ・日時： 開所日数235日
- ・場所： 認定NPO法人小田原なぎさ会 作業所
- ・従事者： 10名程度
- ・受益対象者： 小田原市、箱根町、湯河原町、真鶴町 等 利用者 37人
- ・支出額： 12, 131, 175円

(2) 精神障害者等の社会復帰を促進する為の普及、啓発事業 (地域交流活動 等)

○中期的活動指針「広げよう！『活動の輪』」の推進

- ・内容： 普及・啓発事業の強化を目指し、5年間を一区切りとして推進している中期的活動指針「広げよう！『活動の輪』」は本年度が3年目の折返しの年になった。私達の活動にご理解と共感を持っていただける仲間（法人の会員や協働者など）を継続的に増やすことに注力し、2023年度末の数値目標(正会員数100名以上)の達成に向けて、概ね順調に「一般市民の正会員数」を増やすことが出来た(P 8のグラフ4及び5参照)。本年度の特記として、当法人で初めて一般会員が一般市民への投げかけ（普及啓発活動）により、新しい仲間を生み出したことがある。伝播が伝播につながり、活動の輪が広がり始めている。この小さな一歩には、今後の大きなうねりを生み出していく可能性を秘めている。

引続きNPO法人の原点である市民活動・社会活動の拡大を図り、小田原をはじめとしてあらゆる地域での市民活動・社会活動の底上げを目指す。

- ・日時： 随時（年20回以上）
- ・場所： 認定NPO法人小田原なぎさ会 その他各地
- ・従事者： 10名程度
- ・受益対象者： 小田原市を中心とする日本各地のみなさん約500人
- ・支出額： 781, 924円

○地域イベントへの参加・法人イベントの企画及び実行

・内容：

- ①昨年同様に富士見地区防災訓練や新田公民館文化祭・地域の夏祭りなど殆どの地域主催活動及び楽しい音楽会(市事連主催)・赤い羽根共同募金活動(社協主催)・ハートフルキャンペーン(小田原市主催)などの活動は、COVID-19 拡大の影響で開催が中止になった。この様な状況の中ではあったが、おだわら市民交流センターUMECO主催の第6回UMECO祭りは形式を工夫して開催され、動画による当法人の活動紹介や初めての試みとなる自主製品エコマグネットの一般販売などを中心に参加した。
- ②「なぎさ祭(第8回)」は規模を縮小して内部関係者とメンバーのみで開催した。
- ③6年目になる「クリスマス地域交流会」は規模を縮小して内部関係者とメンバーのみで開催した。等

- ・日時： 随時（年10回以上）
- ・場所： 各々開催場所及び関係機関や地域全般
- ・従事者： 10名程度
- ・受益対象者： 利用者の保護者・小田原市を中心とする地域のみなさん約300人
- ・支出額： 上記“中期的活動指針「広げよう！『活動の輪』」の推進“に含む

○リーフレットや機関紙・ホームページ等の活用

・内容：

- ①リーフレットを活用して、普及啓発を推進した。
- ②機関紙を2回発行し（No. 30：4月1日、No. 31：10月1日）、広く普及啓発に活用した。
- ③地域のご協力の下、富士見地区を中心に上記機関紙の配布（回覧）を継続的に推進し、地域交流や普及啓発に注力した。
- ④リーフレットの常設場所を合計13カ所及び1店舗まで拡大して普及啓発活動を広げることに努力している。
- ⑤情報発信のツールとしてとても効果的と考えるホームページを随時更新し、当法人の活動紹介と地域社会への理解や協働の投げかけをタイムリーに発信した。また日本語版に続き作成した英語版を活用して、広く世界的な普及啓発活動も展開した。本年度までの累計ビューワー件数が8000件を超えるまで（前年までの累計約6000件）着実に伸ばすことができた。

*上記各種の発信源は、新しい通所希望者や新規入会希望者及びボランティア活動希望者等へのつながりツールとして活用実績が出て来ている。中期的な活動指針「広げよう！『活動の輪』」の推進に向けても、活用した。等

- ・日時： 常時
- ・場所： 認定NPO法人小田原なぎさ会
- ・従事者： 数名程度
- ・受益対象者： 機関紙発行部数1000部、
HP累計ビューワー件数8544件（2022年3月31日現在）
- ・支出額： 上記“中期的活動指針「広げよう！『活動の輪』」の推進“に含む

○精神障害者の就労支援の拡大展開（例；企業とのコラボ活動探索）

- ・内容：本年度は COVID-19 拡大の影響などもあり、本活動は停滞した。今までに実施してきた①大小企業・②小田原箱根商工会議所・③小田原公共職業安定所（ハローワークおだわら）とのコンタクトや小田原ロータリークラブでの講演などを含めて、精神障害者の就労拡大（雇用と定着）につながる協働の投げかけを進めてきたが、今後も粘り強く着実に進めていく。
- ・日時： 随時
- ・場所： 地域全般
- ・従事者： 数名程度
- ・受益対象者：国内外の支援企業・団体 等
- ・支出額：上記“中期的活動指針「広げよう！『活動の輪』」の推進“に含む

○行政への要望活動

- ・内容：令和4年度に向けた要望書を小田原市長へ提出すると共に、要望内容を直接小田原市へ説明した。また、同時に全ての小田原市議会議員へ同要望書を写しとして配布した。長期にわたり継続して粘り強く要望している「精神障害者の就労支援の強化（雇用促進の取組強化と就労定着に向けた環境整備）」と共に、この数年にわたり要望している「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた実効ある取組み」及び「自治体区分を越えた包括的な障害者支援」についても目に見える形として推進していただくことを強く要望した。
- ・日時： 3月8日
- ・場所： 小田原市役所
- ・従事者： 数名程度
- ・受益対象者：県・小田原市・医療機関・福祉機関 等
- ・支出額：上記“中期的活動指針「広げよう！『活動の輪』」の推進“に含む

(3) 関連機関・団体との連携に関する事業（地域ネットワーク活動 等）

○地域ネットワーク会議（広域・近隣）

- ・内容：医療・福祉・行政などの機関や地域住民の方々に参加していただき、地域福祉の推進に向けたネットワーク会議を毎年4回開催してきたが、本年度は COVID-19 感染拡大状況から3回の会議を中止し、1回のみ開催とした。平成29年度から広域と近隣の2部構成として試行してきたが、概ねこの開催形式が定着化してきている。今後も各々の会議構成者の特徴を活かして、ネットワーク構築の更なる強化と協働への手がかりを探索していく。
- ・日時：地域ネットワーク会議（広域） 開催日：11/17 1回のみ
- ・場所：認定 NPO 法人小田原なぎさ会
- ・従事者：10名程度
- ・受益対象者：ネットワーク会議参加団体
医療・福祉・行政機関、地域住民のみなさん15名程度
- ・支出額：693,322円

○関係団体や連携団体との交流活動

- ・内容：神奈川県精神障害者地域生活支援団体連合会（県精連）や小田原市障害者事業所連絡会（市事連）及び地域精神保健福祉連絡協議会・小田原地区精神保健福祉会「梅の会」などの関連団体や連携団体との協議やイベント参画などは、昨年度と同様に COVID-19の影響により多くが活動中止になった。

このような状況下ではあったが、地域精神保健福祉連絡協議会（小田原市保健福祉事務所主催）などはリモート会議で開催され、包括ケアシステムの構築等の協議を行った。

また、「ボランティア団体成長支援事業（神奈川県主催）」の対象団体として選定いただき、おだわら市民交流センターUMECOをはじめとした実務委託団体から長期に渡り「当法人が掲げている中期的活動指針達成」に向けたアドバイスや活動支援などをいただいた（2012年6月～2022年3月）。

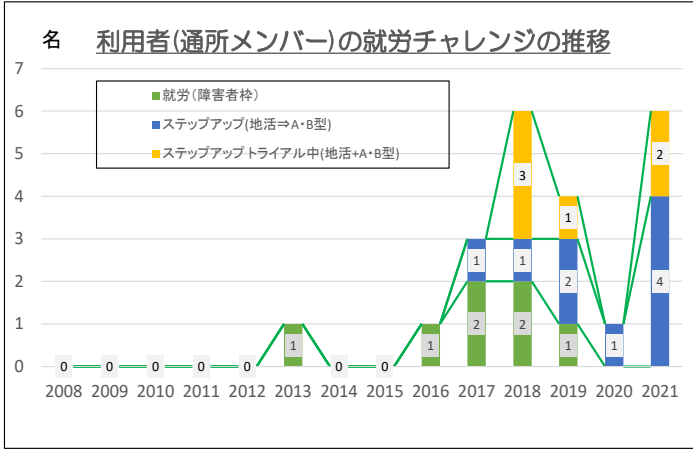
- ・日時： 年10回程度
- ・場所： 神奈川県内、小田原市周辺
- ・従事者： 数名程度
- ・受益対象者： 県・市内の関係団体 10数団体
- ・支出額： 上記“地域ネットワーク会議（広域・近隣）“に含む

○教育機関との協働活動

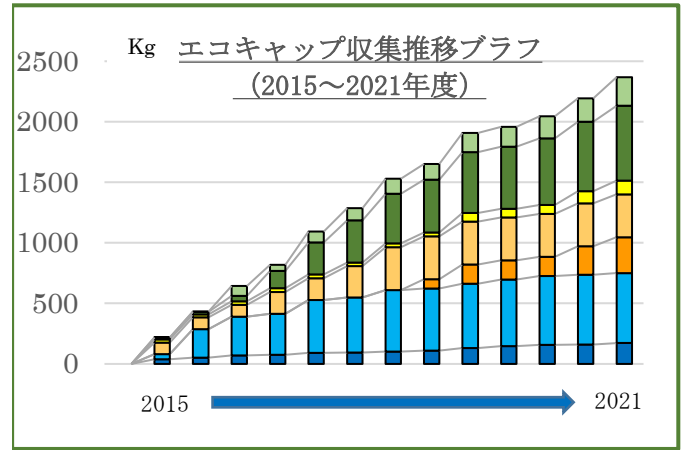
- ・内容： 連携事業及び普及啓発事業の一環として、一昨年度から開始した『従来と枠組みを変えた形での学生実習の受入』を本年度も推進した。国際医療福祉大学（看護学科の臨地実習）と、神奈川県立平塚看護大学校（臨地実習及び地域密着健康教育学習）の2機関との協働である。本年度もコロナ禍の中での活動となり、部分的にはリモートによる疑似実習やセミナーで対応するなどの工夫を盛り込みながら、無事当初計画通りに学生学習の対応を終えることができた。平塚看護大学校の地域密着健康教育学習では、学習結果報告会にも参加させていただき、学生の学びを直接的に感じる事が出来た。

これらの医療・福祉系教育機関との協働関係を深めていくことにより、当法人が持つ社会的資源を有効活用していくと共に、メンバーや職員にとっても若者たちとのよい交流や学習の場に育てていく。

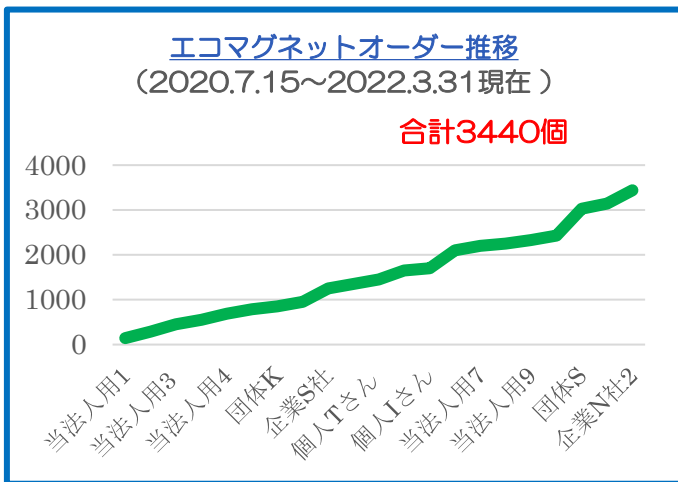
- ・日時： 年20回程度
- ・場所： 神奈川県内、小田原市周辺
- ・従事者： 8名
- ・受益対象者： 県・市内の関係教育機関 2団体
- ・支出額： 上記“地域ネットワーク会議（広域・近隣）“に含む



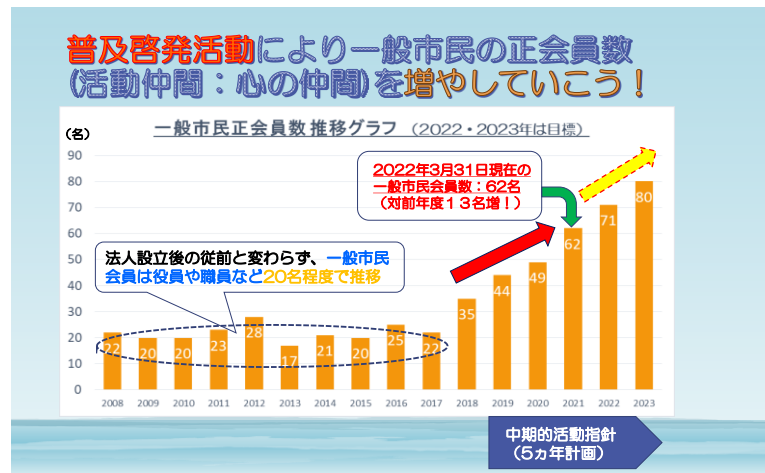
グラフ 1 (就労に向けた支援の推移状況)



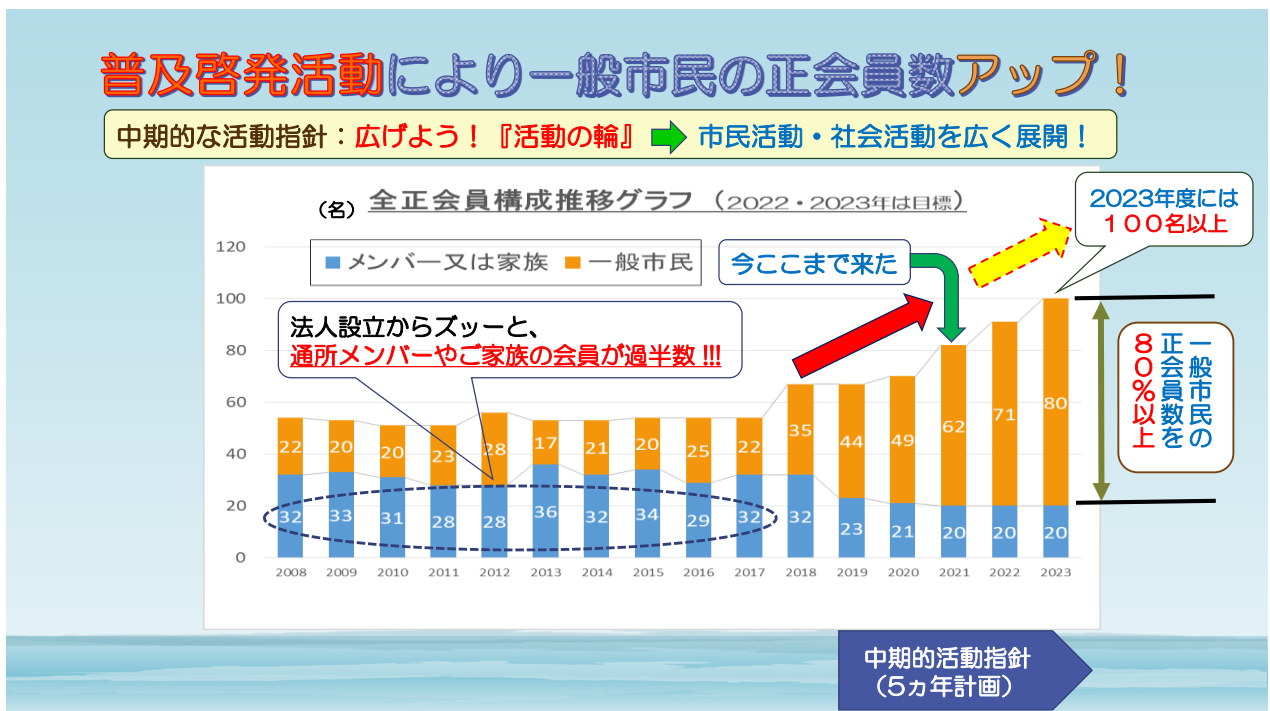
グラフ 2 (エコキャップ活動の推移状況)



グラフ 3 (エコマグネット製作の推移状況)



グラフ 4 (一般市民の正会員数の推移状況と今後)



グラフ 5 (普及啓発活動による正会員構成変化の状況と2023年度末の数値目標)